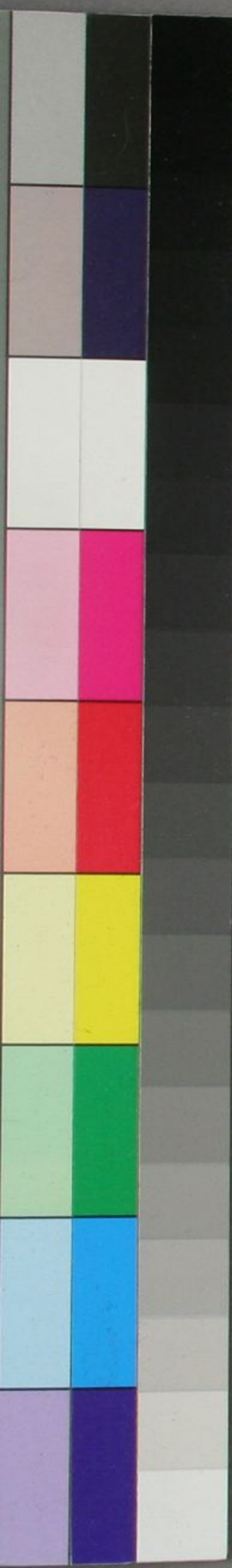
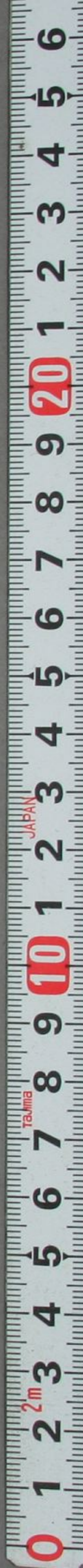


家忠日記

一

リ 5
749
1



門 佛
號 749
卷 1

35

文科大學史誌叢書

家忠日記



明治三十年九月刊行

大塚大學文芸叢書



緒言

家忠日記は華族松平忠和の秘藏にして其祖主殿助家忠
戦國の際に在りて自ら聞見する所と筆記とある者あり
家忠廿三歳の時に筆を起し天正五年十月十七日より文
禄三年九月十月の交に至る凡十八年間の實録といふ文中
往往挿畫あり共に家忠の自筆小係る今其畫を併せて刻
小付に

一原本ハ横綴の小本にして厚さ四五寸小及び蒼然たる古
色を帶ふ卷數かく首尾とも殘闕して完からざる間亦文字
の關佚摩滅蠹蝕等ありて讀へからざる者少からざる其關

佚小屬する者小は□を用ひ摩滅よハ□を用ひ蠹蝕にハ
也を用ひて一目の下に瞭然たらしめ且通編を分て六卷
とに其便小従ふかり

一世に家忠日記と稱して横綴七冊の寫本あり原本ハ門外
不出小して人目に觸る、由なりその世小傳ふるは家忠
九世の孫主殿頭忠馮の寫本より出り者よて其挿畫を省
畧せり又挿畫かきの副本もありて全く流布の者と異か
れことなり今原本に就て文字を訂正し二種の寫本をも
参考を但字形の詳からざるハ姑く原字の儘に摹寫して
務めて其真に差はさらんふとを期す

一家忠の外孫隼人正忠冬本書に基き家忠日記増補追加お
る者廿五卷を著せり永正八年徳川清康の生誕に起り元
和二年家康の薨逝よ訖る文禄三年以上を増補と慶長
元年以下を追加とい家忠の實録と同日小視るべきに非
るも以て參攷よ資するに足れり

一家忠の事蹟寛永寛政の兩譜に詳なりと雖亦の日記よ至
りては一言も及ふふとか一家譜も亦然り然れとも當時
戦國の情態より徳川氏君臣の經營よ至るまで其一斑を
見るべき者ハ此書の信なるに若くはなし且家忠ハ康子
の役鳥居元忠等と俱に伏見城小戦死し臣節を全うした

る者あり因て今寛政重修譜小據り其事蹟を掲け畧系と
も製して其人の梗概を知しむ

一 寛政重修譜小據り其事蹟を掲け畧系と
も製して其人の梗概を知しむ
一 寛政重修譜小據り其事蹟を掲け畧系と
も製して其人の梗概を知しむ
一 寛政重修譜小據り其事蹟を掲け畧系と
も製して其人の梗概を知しむ
一 寛政重修譜小據り其事蹟を掲け畧系と
も製して其人の梗概を知しむ

松平家忠譜 寛政重修譜家譜所載

松平家忠 又ハ郎主殿助 主殿助伊忠の男母を持殿三郎長持の女弘

治元年深溝に生れ天正三年吉田の町口乃よりひ小父と

おるくまうひをそまわり五月二十一日より父と

に葛葉山に安宮城及び少りの二侯祿訪原小山等ニヤの

城とせめ首着干級と侍て軍功をともふを六年三月七日遠

江國掛川小むっハせふ備ひしも侍奉り九日味方の勢後

河國田中城の外郭をや廻りてまはひしそみ家人佐野次助

某の家を十郎某とのく首級と侍り七月おるを城うけと

遠江國横濱賀の岩を築き三日御使を下され御是れ方を社

さしひ給ふ事と賜ふ八月遠江國牧野城の堀普請を役そ
七年正月二日濱松城よりついで御福初のとよき着座す後代々
例とふれ二十九日吉良に放鷹しつかへせしむ小乃とよ
字屋にむらへ事察したとまり御元もの、鷹とたゆ小二
月九日濱松城の普請をうきを多しは三月六日牧野城を築
柵の地りきむ守衛をへしとおろきを四しありしは七日
家人ととめて濱松の普請を役し家忠は牧野よりいより西
郷孫九郎家貞に代りておれを守れ十三日種率と出し事戦
しめの男女二十四人牛馬あまると分捕を八月五日おろを
よりて多鉄炮のものとひきあす西尾城を守り十一月四

日よりおろきをふよりて井呂崎の邊に伏兵を設き狼烟を相
圖小松よりて敵をうらむとせしに種率等其邊に野に火を
放ちてあふりをあけ相圖しむけしは紀明きしむしに
居元忠々組の者の所為なりしかたすをち新罷さし於七
日ゆつひ瀧坂表に伏兵を設け首十餘級小舟船二十匹を
得たり二十四日倉庫をくち八年三月十八日高天神城を
攻らしむらうめおろせ候うきて遠坂に岩を築き二十五
日より中村小糸害を構ふ四月十八日西郷家貞に代りて牧
野城をくちおろ六月十日高天神城をせめ孫小とて横浜関に
御出陣よりしう八家忠を鎌田に陣し十一日麻鼻に岩をか

戸へさうはり十七日高天神城の根小屋を放火し敵若干を
 討とり尼士板倉森定重戦死し其の餘の家人死傷あり
 七月二十一日井呂崎にむらさせ強ひりよハ家忠州田北戦
 せんを法とむ二十二日小山にいて戦ひ家人等首級を得て
 剣をけりゆり十月高天神にむらハせしゆゆりに家忠決闘
 橋谷比叟と築く十一月十二日高天神城を攻めゆふより
 織田右府に援兵を請せ給ふ所使をうきしゆり安土にか
 りむく九年三月より高天神乃家忠と行り晝夜となく鉄炮
 とをかちて城攻せぬ二十二日城陥ししに其の手に精兵
 五騎うち死し首若干級を得しゆり二十三日落人阿きしとが

らめとも七月三日より相良比叟を築き九月演松城乃善法
 と後す十年二月所鷹の鷹をたゆふこの月甲斐の武田をう
 たれむとて所馬をむきしゆりハ家忠もあしひ二十七
 日より駿河國持船城をせぬ二十九日城將朝比奈駿河守信
 孟力法きて降ししハ家忠おれと久野にびくり信濃國に
 追ふ所七月三日甲斐國を志川のつゆハむたぬ演松と所
 出陣所至九日府中につらせしゆゆりて後北條氏直と所對陣
 乃阿比家忠し所に陣し高敵とむり二十六日伏兵を
 没きて敵数人討ちとり所威をかちゆり十一年八月二十
 八日西征家忠にかりりて江尻城を守り十月四日長久保城

此普請を役す十二年三月織田信雄豊臣太閤と矛盾小とよ
ひ援兵をこひて東照宮尾張國よりむらひき給ひし小八家忠
も諸將とおおしをけきたちて矢作の館にいづりおれより
河内小畑しつ津嶋に陣を十四日池田務入父子犬山城をせ
めさ野と闘えしつ酒井忠次とくもに甚道を巡りて桑
名より陣し十五日津嶋にかへ敷十七日浦上忠次とおおし
く犬山にむらひ樂田羽黒五郎丸の急に氏屋を放火し忠次
とくもりて森長一よりし羽黒八幡に森の岩を攻るふ
り首つちを獲り四月三日外山城をすも敷八日長久手
にむらちを給ひし酒井忠次本多忠勝石川敷正とくもに

小牧山に河内陣を守れ十日右衛門軍と樂田にかきめ小松寺
山に陣を張るにをいし味方の軍勢一万八千餘を十六隊
よりつちを給ふ忠満井忠次井伊直政と共小笠原をうきとく
りり二重堀の前より東野にいたり常陣に十七日河内譜代に
諸將三人をいして五日のけりに外山城を守るへきむらおを
せ下はる家忠甚一人をり六月二十二日信雄とおおし兵
と共しつ蟹江城をかきみ諸將の攻口城はく免給ひしに家
忠は酒井忠次丹羽氏次等と共小太夫の海門寺口より毛を城
中より不意にうちいて戦ひを挑しけ敷小宮手そけへと
乱れしつ勇戦きしつは城兵おろし敗走せしに忠次家

忠等諸卒を勵し急小城中に攻入黄昏にをよむ忠次、兵戦
 ひたすらせしむ、柳澤康政これに代り家忠、兵とせし小二三
 乃丸とせめやある城將瀧川一益本丸よりこめられ終小
 降とせし城をり帯てさる八月二十七日太閤宗良五郎丸の
 邊に北を家忠斥候とせしむりて羽黒楽四にあり九月
 樂田小川田す十月十一日右衛門伊勢國了軍と出陣し、岡之
 けきハ小牧山の要害を巡見し、給ひ家忠とせし、小幡城は内
 ちの御しとせ、若沼空盛を別らる十一月十六日佐雄太閤と
 和儀とせし、のひ東照宮より、清洲より、河原陣ありけきた家忠
 と小幡城と散りて河原小幡す凡この役家臣數等戦功あり

死傷とせし、をくなく、十三年八月より、駿府城の普請と
 役も十一月十三日の、東石川敷正園崎城をたちのくとせし、
 家忠す見屋、小兵とせし、あ多馳は、に、法將い、ま、まら
 ありしかは、從卒と配りて園崎乃、部内と守らし、む十六日、河
 前、うめ、され、おの、た、ひ、敷、正、事、不、當、に、出、陣、の、と、こ、ろ、家、忠、い
 そ、ま、ま、世、參、軍、を、守、衛、せ、し、は、つ、祿、に、忠、義、を、ま、け、し、武、備、怠、ら
 け、不、故、ふ、り、と、せ、河、原、を、か、り、布、部、十八日、平、松、金、次、郎、某、城、河
 使、と、せ、園、崎、城、の、修、補、す、と、や、う、に、成、し、お、と、を、賞、せ、し、は、十
 二月、四、日、より、遠、目、城、の、普、請、と、役、は、十四年、四月、二十二日、よ
 り、長、澤、城、修、補、の、功、は、た、ま、く、十、月、太、閤、乃、質、と、せ、大、政、所、園

崎に下向ありしかハ家忠十八日池鯉射^{ちりふ}ありておきをむ
 りふ十五年正月より後府城の普請を役し十七年にいり
 て城の功なる十八年二月小田原より進發のときハ酒井忠
 次とおおしく早川口小陣を六月二十二日北郡井伊直政松
 平康親風雨に乗じて藤曲橋小攻入火をふちてと紀のこ
 るを向くおのときかち味方に降し合せありしかは城中よ
 り討て出ず家忠の陣を襲ふかとりたりを諸軍阿はさける
 小家忠ひとり少もあらず士卒皆して固く已る陣をゆる
 りぬ居て御本陣よはせありと親の阿りゆすかあはそ
 敵より夜討するには阿らしし城中小内應乃ものあふれ或は

味方より攻入りて城外におきを去らむむるをの烽火を阿
 きしものなほ厚しと申せしにあましく阿り多戦のつう
 隆動あつたりけむち家忠は御前にのりて賞さるる八月開
 東よりうらやむひて唐領を將し武藏國忍城^{にんじょう}をうひ埒^{さき}
 玉^{たま}郡乃らちり多一万石城領し文禄元年二月十九日下総
 國香取郡上代^{かしの}みうつさる四月より江戸城普請此功を考ま
 く三年二月二日太閤諸大名の人夫をりして伏見城を築
 しむ家忠をこのとをうやうやありて三月二日入洛を六月
 二日太閤家忠より阿川より普請の成功拔擢多を賞し惟
 子むいり羽織をあへられこれより上代を將して下総

國香取上総國長柄武射山邊望陀五郡及ひ同國吉倉平川為
郷此うちふらたきれ香取郡小美川城を賜ふ慶長四年春お
りさ成りきそ伏見城をゆも都五年六月十六日上杉景勝城
征多しれむとて大坂城と津進發行りて伏見に入せ給ひ十
七日家忠をよひ島居元忠内友家長松平近正と津前ふめさ
社石田三成り所行疑もくおりめさ進油等とえしむこ
比城を守りしめさ成のくこころを合せふくけりりて
勇成勵し忠義成はくすへさし命さされ木下勝俊を援兵
にさしめさるりりりりり果して上方に兵起りて七月
十五日三成平川はくむ城も川多城を攻めりしすへさし

城中をくは家忠等居てさしけられ津家人おらさる中
しし武略とえしこれ我とをこの城ふくめさるいりて
う教れ多勢に懸して城をささしや東國勢の守はくこら近
國り成いとわふ乃城のさなれば攻やかりてその武勇成こ
ころさしれしとこさしすふさち元忠と議し城下城懐をさ
む守潔と堅をな十八日筑前中納言秀秋成忠大将とて上
方勢をなす十万余騎伏見城を圍む元忠家長と本丸をゆも
里家忠近正は西丸の守將とてさしめささ戦ひ市北八家
をあらしといへともたやそくおしとえしりて十餘日を歴
しりしに晦日此夜城兵長原れものとも敵に内應して松丸

より秀秋の軍勢を引かせ火を放ちしかば黎明にともひ城
おろちは焼亡に城兵力ははくして布せくとはいへとも内外
比大敵小阿よりかしくみふ大守の城門小集り志もく支
へきくか小家忠黒糸の鎧に櫛なりの兜を着し累代はく小
頼三原れ刀を帯し今日と最期ともあ士卒を指揮して奮ひ
戦ひ島津の部将別所下野守某と名乗て築地乃迄小すみ
来りて家忠の川うら鎗提きて突て出たあより別所を追
ちひな伐と軍士は左右とあつて人城中よりすし出勇
と奮て苦戦し敵を去りそくると凡三ひひして家を敵て
ちうはくと伐場は志うれともすてに左の腕に剣をかきふ

り数度此戦ひにつらきかはむとあつ城中小引いり家人
をしてきけひ東は敵を退ちりそき志もく息はきすゆ
たひさつと出むとせしかと門をゆるもこのすてに死し鎗
の阿りところをうらひて開くとあふハハアアハハ家人
等をして敵を防うせ腹掻らんと死す年四十六賀屋源慶慈
雲院と號をその日家忠の士名あるもの凡八十五人戦死
す ○寛永諸家系圖傳には家忠切腹の下家人松平九七郎島
田久助大原九郎次郎同長七郎鶴殿藤三郎原田内記三浦
右衛門八松平理助原田清七酒井助太夫宇野久四郎横落熊
藏酒井猪之助越山甚一郎同喜太夫服部八藏稻吉清助此外
兵士討死する者すへ 宝は水野藤次郎忠分り女
て八十五人と阿り

畧系

深溝松平三世
伊忠 又八郎
主殿助

鶺殿長持女

家忠

又八郎
主殿助

忠利

初名忠俊幼名孫又八郎
主殿助從五位下

忠勝

十郎左衛門
子孫稱羽太

伊長

新次郎

玄成

十三郎八郎左衛門
仕德川賴宣

某

松意妙音院遠江國鷺津本興寺住持後歸俗

女

松平甚太郎家忠妻後嫁跡部大炊助某又嫁千賀孫兵衛某

女

嫁鶺殿八郎三郎康孝康孝死後再嫁松平與二郎某

女

嫁戶田土佐守尊次

女

嫁松平孫十郎元勝

家忠日記目錄

- 第一 天正五年十月至七年十二月
- 第二 天正八年正月至十年十二月
- 第三 天正十一年正月至十三年十二月
- 第四 天正十四年正月至十六年十二月
- 第五 天正十七年正月至十九年十二月
- 第六 天正二十年正月是歲十二月改元至文祿三年九月九月以下至十月殘闕不可讀

卷一 天正五年十月至十一月
 卷二 天正五年十二月
 卷三 天正五年十二月
 卷四 天正五年十二月
 卷五 天正五年十二月
 卷六 天正五年十二月
 卷七 天正五年十二月
 卷八 天正五年十二月
 卷九 天正五年十二月
 卷十 天正五年十二月

家忠日記第一

文學博士坪井九馬三校訂

日下 寛

天正五年丁丑十月 ○卷首

十七日 庚子 白坂筋にうつりたりに出

十八日 辛丑 同郷に去る

十九日 壬子 西郷筋に去る

廿日 癸卯 武田勝頼小山今城より大井川を越えて引

廿一日 甲辰 雨降 懸河より濱松迄國高歸陣に任康と岡崎

家忠日記第一

廿二日 乙巳 濱松普清家康馬伏塚より濱松に御帰陣

廿三日 丙午 同普清故

廿四日 丁未 同普清家康國元之振舞は成故

廿五日 戊申 故大井筋へまより申故 普清

廿六日 己酉 普清右國元三河へは歸し手前普清出来故

廿七日 庚戌 普清

□ 辛 普清出来故

○以下二三行闕佚

霜月

一日 甲子 水野藤次所より飛脚 □

二日 乙卯 鷹野へ出い

三日 丙辰 鷹野へいて故上村出羽守小者生害いとて子を

被負い

四日 丁巳 鷹のへいて故

五日 戊午 今下ニ法門は 上村出羽守去をれい

六日 己未 法門い

七日 庚申 鷹野へいて故

八日 辛酉 吉田酒井左衛門所に人越い

九日 壬戌 初雪降 永良郷に鷹野に出い

十日 癸亥 ふうう長池まで白き引せい鯉三十本

十一日 甲子 深溝白土へり哉

十二日 乙丑 雪降

十三日 丙寅 鷹野へ出い

十四日 丁卯 緒河より若人越い此月ノ十四五夜頃

十五日 戊辰 岡崎へ越哉

十六日 己巳 緒河水野藤次殿より家中に

以下二行闕佚

□ 壬申 會下ニ法門有 雪降

廿日 癸酉 鷹野へいてい

廿一日 甲戌 會下にり

廿二日 乙亥 雨降

廿三日 丙子 鷹野へ作

廿四日 丁丑 鷹野へいてい

廿五日 戊寅 鷹野へいて哉

廿六日 己卯 たりひいてい 會下ニ法門有

廿七日 庚辰 江湖僧尼に振舞い

廿八日 辛巳 佐康家見ニ岡崎に越哉

晦日 壬午 岡崎ニ逗留申に六供三城坊林原七郎右衛門所

へ越哉

十二月大

一日 癸未 信康各國衆ありけり

二日 甲申 深溝よりへりけり

三日 乙酉

○以下自四日至九日 闕佚

十日 壬辰 ふうりそまや山にて江湖新煮うとをみ焼い僧

衆令下ととけりけり

十一日 癸巳 鷹野へいりけり

十二日 甲午 岡崎一せふうりそまを誠けり

十三日 乙未 西郡五井松平左衛門所にて禮に誠けり

十四日 丙申 深溝よりへりけり

十五日 丁酉 會下へり

十六日 戊戌 家中衆水鳥一いりの

○ 这家康誠信岡崎へ越けり

○以下至廿六日 闕佚

廿七日 巳酉 竹右松平備後守所に借錢に人をつりけり

廿八日 庚戌 會下へり

廿九日 辛亥 吉田へ借錢納所へ人をつりけり

晦日 壬子 岡崎に為歳暮人をとりけり

天正六年戊寅正月大 小年廿四歳

一日 癸丑 夜雨降 西ノ大風吹 秋ノ風程ハハハ
 二日 甲子 夜雨降 夜北ウチニ日返 濱松ニ礼ニ
 三日 乙卯 風吹レト舟渡リ留 家康ヨリ鷹雁
 四日 丙辰 夜雨降 深溝ヘウヘリハ信康 鷹野ヘ越ハ
 五日 丁巳 雨降 深溝ヘウヘリハ
 六日 戊午 信康
 七日 己未 倉下 越ハ
 八日 庚申 信康
 九日 辛酉 信康
 十日 壬戌 倉下

十一日 癸亥 夜雪 岡崎屋敷
 十二日 甲子 松平伊豆越ハ
 十三日 乙丑 夜雪降 岡崎屋敷ヘ振舞
 十四日 丙寅 岡崎城ウハハ
 十五日 丁卯 爆竹乗ハ
 十六日 戊辰 雨降 御家门様御成ハト々家康自
 御越ハ
 十七日 己巳 ふううモより門木トけハ
 十八日 庚午 屋敷普活ハふううモ人ウつル
 十九日 辛未 雨降

家思日記

廿日 壬申 園崎へこゝ

廿一日 癸酉 御家門様園崎

御家門様

○以下至二月三日 闕佚

乙酉

四日 丙戌 小ハ雨也 大雪降三尺 信康御母様より音

信康成

五日 丁亥

六日 戊子

七日 己丑

鷹野へいて

八日 庚子

とろくやう 雨降

九日 辛卯

ひうんこ入 あさこの山伏こゝれに信康園崎

の長光衆 こゝれ

十日 壬辰

源溝へ信康参れ

十一日 癸巳

新城普清と参りて

十二日 甲午

會下ニ参

十三日 乙未

園崎へ参

雨降

新城御普清より自源松越いて普清也
これ永良の者御領所より山へ入る事一人出

家思日記 第一

六

いへに申越 [] 隣郷ひろくけしきも同前也

十六日 戊戌

十七日 己亥

十八日 庚子

十九日 辛丑

廿日 壬寅

廿一日 癸卯

廿二日 甲辰

廿三日 乙巳

夜雨降 永良熱うう所中りい

濱松所ちんのひいて新城普清

新城普清い

同普清い

同普清い

雨降 各園流平岩七の助所ふる舞い

普清い 國宗朝倉石川伯耆所の儀 同國宗夕倉酒

井と四郎所の儀

廿四日 丙午

廿五日 丁未

廿六日 戊申

廿七日 己酉

廿八日 庚戌

晦日 辛亥

三月大

一日 壬子

二日 癸丑

三日 []

雨降い 松平上野守を振舞い

雨降い

長澤身狭を振舞い

雨降い 是迄夜日る降也

雨降い ひつゝ時天氣あうりい 申時地震い

新 城 普 清 儀

同普清い 濱松より御陣ふまいて所んやい

雨降

[] 松より陣ふれ越いてふううをへりい

四日 □ 五左衛門所ニ祖父大炊助二十三年の心より

五日 丙辰 二川迄出陣也

六日 丁巳 濱松迄立候

七日 戊午 懸河へ出陣也

八日 己未 懸河より大井川のちニ陣立候

九日 庚申 寺の田中へ城へ働外らる事とあり手前へ

十日 辛酉 也教二人討 □ 佐野孫助行家十郎うつ也

十一日 壬戌 牧野原城迄歸陣也

十二日 癸亥 同普請也

十三日 甲子 雨降也 教より出今城へ家康旗本國元ハ大将

計働也

十四日 乙丑 普請也

十五日 丙寅 雨降也 夜より 同普請也

十六日 丁卯 雨降也 同普請也

十七日 戊辰 同普請也

十八日 己巳 牧野原普請出来いて濱松迄歸候

十九日 庚午 濱松より日と残りニ園崎迄うへり也

廿日 辛未

雨降夜より

廿二日 酉 癸

廿三日 戌 甲

廿四日 亥 乙

廿五日 子 丙

廿六日 丑 丁

廿七日 卯 戊

廿八日 辰 己

廿九日 巳 庚

晦日 己 辛

四月大

二月十日 新城普徳の跡りに今日普徳仕儀

中島へこゝ茶志よ

雨降い夜より 鷹野へ出儀

中島崇福寺にふる舞

夜より雨降

中島より岡崎へ御い

一日 午 壬 岡崎之城へいり

二日 未 癸 信康小性宿にふる舞い

三日 申 甲 夜より雨降

四日 酉 乙 雨降

五日 戌 丙 夜雨降

六日 亥 丁 涼溝へ越い

七日 子 戊 倉下へり

八日 丑 己 同倉下へり

九日 寅 庚 竹岩松平玄蕃所へ礼に越

十日 卯 辛

十一日 壬辰

日待以會下へ振舞也

十三日 甲午 園崎へ歸也

十四日 乙未

十六日 丁酉 六く三城坊へ出也

十五日 丙申

十七日 戊戌 日通ニ信康濱松へ禮ニ往越也

十八日 己亥 日通ニ信康自濱松園崎へ往御也

十九日 庚子

廿日 辛丑

廿一日 壬子 猿乐瓦越也

廿二日 癸卯 雨降

廿三日 甲辰 雨降 猿乐衆越以て拍子有

廿四日 乙巳 鷹野へいて也

同鷹野へいて也

雨降りの時中

○以下至晦日闕佚

五月

一日 壬子 城出仕儀端午近日の間各用之由平岩七之助
所より申越也

二日 癸丑 夜日雨降ハ 篝カマ

三日 甲子 同雨降

四日 乙卯 同雨降 山崎水野辰次殿へ音信ハ

五日 丙辰 同雨降 城に仕仕我寺所へ鴉殿八郎三郎松

平伊豆守ハ越ハ拍子ハ

六日 丁巳 岡崎城に越前幸若と二幸春大夫越ハ小性年十

也名國ハ越ハ聞ハ舞二番多ハち十番ハ

也

松平右郎左衛門殿ハ越ハ拍子ハありハもり

美作へ人数八万出底ハ助城ハつめハ為後詰ハ

□ 家門様御馬被出ハ申ハ

○八日 九日 關伏

□ 雨 晩ハ雨降 遠州牧野松平基右郎侍都筑助大

夫ハ越ハ

十一日 □ 夜ハ雨降 祈禱ハ南城坊 吉田左衛門所ハ

今日中ハ御能ハいハん中ハ為知越ハ

午時地震ハ

十二日 癸亥 夜ハ雨降

十三日 甲子 夜ハ大雨降ハ堤七八間切ハ

十四日 乙丑 雨ハ越ハ

十五日丙 日待以雨降會下り

十六日丁

十七日戊辰 雨降

十八日巳 會下へり

十九日庚 夜雨降

廿日辛

廿一日壬申 會下泰以 雨降

廿二日癸酉 夜雨降

廿三日甲戌 同日迄雨降 岡崎へ歸り

廿四日乙亥 松平右郎左衛門所へ振舞拍子越儀

廿五日丙子

廿六日丁丑 信康切山に楊梅見物に越儀

廿七日戊卯

廿八日己卯 夕立有る 家康普請奉行天野清兵衛より舞儀

廿九日庚辰 同夕立有る 濱松へ人あつたための手判をつらハ

一ハ大草南城坊より石舟越儀

六月大

一日辛巳 城に出仕儀 夜より雨ふる 鶴殿八郎三郎所

へ越儀

二日壬午 雨降 城小性宗越儀 松右郎左衛門所へ振

舞：越後

三日 未 癸 雨降

四日 申 甲 雨降

五日 酉 乙 藏を作らせし 夕立あり 松平伊豆所へ越し

六日 戌 丙 成瀬藤八位康鷹匠より書し

七日 亥 丁 和屋新八松平紀伊守よりして我等所迄越し

八日 子 戊 深津會下之心より越後

九日 丑 己 永良へ堤つらせし

十日 寅 庚 堤法らせし

十一日 卯 辛 同堤法らせし

十二日 辰 壬 中島堤法らせし

十三日 巳 癸 同堤法かせし

十四日 午 甲 同堤法かせし

十五日 未 乙 同堤法らせし

十六日 申 丙 夕立あり 岡崎へ歸り長井運見より土呂へより

候

十七日 酉 丁

十八日 戌 戊 水野惣兵衛殿ふる舞し

十九日 亥 己 松平伊豆殿ふる舞し

廿日 子 庚 知行方勘定し

廿一日 辛丑 同勘定仕

廿二日 壬子 酒井左衛門尉岡崎に越し

廿三日 癸卯 同左衛門尉所へ越し濱松より来朝日善清越し

へし申束し 水野宗兵衛殿に北所へ越し

此

廿四日 甲辰 山崎水野後次殿より女房宿ありしに越し

廿五日 乙巳

廿六日 丙午

廿七日 丁未

廿八日 戊申

くしと法庵にふる舞にて越し小美へ川より

こ越仕 頃こ半時程夕立よりくと仕仕

廿九日 己酉

晦日 庚戌 濱松善清、自岡崎深海に越し

七月小

一日 辛亥 二川迄立仕

二日 壬子 遠州濱松迄立仕

三日 癸丑 よこにわき出場で立仕

四日 甲寅 五上善清の家康よりふりを給りし

五日 乙卯 同善清に

六日 丙辰 同善清に尾崎金三郎よりふりしをりし

作

七日 丁巳

同普清以上方山園半左衛門、使在御いより由
いんさの城上介殿組御せめりて瀧川美濃三人
衆明智五郎左衛門せめられ此方亦手負多し
瀧川殿も手負りれ也

八日 戊午

同普清作 酉時より雨降し

九日 己未

雨降大風酉時よりふく 普清の家康よりふる
舞本田豊後守殿よりふる舞

十日 庚申

戌時と雨降風ハ申時とふく也 同普清し

十一日 辛酉

同普清し

十二日 壬戌

同普清作

十三日 癸亥

同普清し 十三日之酉時雨降

十四日 甲子

同普清し 辰時と雨降

十五日 乙丑

同普清出来し

十六日 丙寅

よこたより吉田と歸し

十七日 丁卯

深澤と歸し

十八日 戊辰

岡崎と歸し

十九日 己巳

越前鶴唳舞ハ幸給大夫越作て舞し

廿一日 辛未

夜雨す 午の時夕立南

廿二日 申 子刻より雨降

廿三日 雨降 午末時雨間有 夜も雨降

廿四日 辰刻迄雨降 夜大雨降

廿五日 戌刻相二夕迄と云る

廿六日 午末相半時程雨降 土呂市相すゝにて廿八日

の市日立

廿七日 巳時より雨降

廿八日 雨降

廿九日 巳時迄雨降 御屋敷御祝云々 二連木戸田新

六郎所へ事也送り之山中越候

八月小

一日 辰 城へ出仕候 辰時半雨降

二日 巳 よひの雨降 牧野番、深海迄候

三日 巳 時雨降

四日 戌刻より大雨降 午時迄所、川出候 倉下へ参

候

五日 濱松日かけニ候 卯刻辰時迄雨降 城へ

出仕候

六日 雨降候 松平玄蕃所へ振舞候 濱松より掛川

天龍寺迄参り候

七日 丙戌 寅刻より午時迄雨降 牧野番替ハ松平甚右郎

西郷孫九郎ニ替ハ家中部筑助大夫所振舞ハ

八日 丁亥 松平甚右郎所ニ振舞ハ 牧野城堀替ハ

九日 戊子 牧野新次郎所ニ振舞ハ 丑刻より辰時迄雨降

同替請ハ

十日 己丑 牧野定番所振舞ハ 丑刻より巳時迄雨降 同

替請

十一日 庚子 卯刻より辰時迄雨ふる 松平甚右郎小性振舞

假 同替請

十二日 辛卯 同替請ハ 夜雨降

十三日 壬辰 雨降 同替請ハ

十四日 癸巳 刀刻より雨時迄大雨降

十五日 甲午 替請ハ

十六日 乙未 駿河出相より乗馬二ツ出ハ 同替請ハ

十七日 丙申 同替請ハ 定番衆ふる舞ハ

十八日 丁酉 同替請ハ

十九日 戊辰 辰時より雨降 駿河口へ働ハ 三河衆演相迄

此越ハ 同替請ハ

廿日 己亥 替請出ハ 雨降

廿一日 庚子 未刻迄雨降 家康ハ 康小山ハ 此動ハ

廿二日^平 西駿河田中へ為蒞田北動其北へ馬乘元大谷

一拜見に出い平岩七と助同心手負にて北越い

廿三日^壬 人足井籠と送りい平岩七と助同心掛川と送り

北

廿四日^癸 同人足井籠と送り南風何しく吹候 ちととと

より人為事申越い

廿五日^甲 辰時雨降 同人足送り小者一人生涯さ世に牧

野番替 いへ八陣中へ各用と申越い

廿六日^乙 亥時と雨降 田中へ蒞田へつりハハハ 又申

時より雨降

廿七日^丙

廿八日^丁 丑刻と雨降未明と牧野城より一迄敬馬乗七

ハ騎越い

晦日^戊 家康より蒞田兵糧貳百石

九月大

一日^己 西 兵糧五つりハハハ

二日^庚 信康馬煩と引て北越い

三日^辛

四日^壬 西駿河より家康牧野迄御帰陣い牧野番二連本

流と替は牧野五場普請い

五日 癸丑 同普請於家康より鶴殿善六御使岡崎在郷急用

之由北越作也

六日 甲子 家康信康御歸陣に國元之普請に牧野宗と今城

へ働也

七日 乙卯 牧野普請出来に懸河迄歸陣也

八日 丙辰 けり日より去り去り迄歸陣に濱松城出也

午時雨降

九日 丁巳 去り去りより岡崎迄歸陣に

十日 戊午 鶴殿八郎三郎所へ振舞より越作 信康田原へ

鹿より、越作に

十一日 己未 祈禱に

十二日 庚申 御祝言御いひとく々自濱松家康に越作松左

郎左衛門殿振舞に

十三日 辛酉 酉時より雨降 家康御屋敷へいて、松平左郎

左衛門所、振舞

十四日 壬戌 濱松に家康御歸 酉時迄雨降

十五日 癸亥 深海へ越作

十六日 甲子 卯刻より雨降

十七日 乙丑 雨降

十八日 丙寅 刀刻迄雨降 九月盡之連歌發句 家忠

祈りまゝに世にふるまはれ

十九日丁卯 會下へ参候 涼海とやつきのつらとやなり候

廿日戊辰 日待候 吉田酒井左衛門所へ人を越し 岡崎候事

江戸越候

廿一日己巳 岡崎へりへり候

廿二日庚午 鴉殿ハ郎三郎 松平右衛門二子に候 照取

誹諧當作俳諧
以下倣此

誹諧は成刻ニ吉田左衛門所より家康名聞取

崎在郷ニ儀冬用ニ申中來候

廿三日辛未 在郷ニ付 鴉殿ハ郎三郎 松平右衛門我等

三人ニ所より石川伯耆平岩七ニ助所ニ使者を

つらつらに候へり候 在所に候候へり申中來候

廿四日壬申 さいく人こゝにて母衣の志ん作せし 松平右衛

左衛門殿に候候にて拍子候

廿五日癸酉 巳刻より雨降 石川伯耆平岩七ニ助所より在

所へ越候へり申中來候

廿六日甲戌 酉刻迄雨降 ふらふらに女より引越候に候

屋敷へ松平右衛門左衛門に候候にて誹諧候

廿七日乙亥 ふうふうに越候人足あつたため越候 涼海とや小

てをい鷹のうさうへりより候

廿八日丙子 丑刻雨降候

廿九日 丁丑

晦日 酒井左衛門平岩七之助所茶屋四郎次郎合力事

申越儀

十月小

一日 己卯 會下へ参儀

二日 庚辰

三日 辛巳

四日 壬午

五日 癸未 丑時より雨降酉時止

六日 甲申 在郷所礼之濱松へ勘解由左衛門越儀



七日 乙酉

八日 丙戌

九日 丁亥 西風吹

十日 戊子

十一日 己丑 西風吹

十二日 庚寅 同西風吹あゝく門木引さいとい鷹より儀

濱松酒井左衛門如雷より作圖之河合勘解由左

衛門借錢事公事にて目安上儀申申来早之裁許

仕事へ申申来

十三日 辛卯 勢つと出い

家言 第一

十四日 壬辰 門木引き候 巳時より雨降 會下東本様御城の

山崎より藤左衛門と云人城小濱松へ河合裁

許に勘解由を越候

十五日 巳癸 會下へ冬の 鷹の志やうそくより早刻迄雨降

十六日 午甲 東條舞臺城候て舞の 酉時より雨降 藏作を

候

十七日 未乙 巳刻迄雨降 御家門様西条近口御成候とて酒

井左衛門所より番匠やといに城候

十八日 申丙 刀刻迄雨降又酉時雨降 鷹野へ出候

十九日 酉丁 刀刻迄雨降西風あらく吹酒井左衛門所より武

廿日 戌戊 田四郎のて他由申來候點五排候

廿一日 己巳 同點取ノ排候

廿二日 庚子 會下への 戌刻より卯時迄雨降 河合公事如前に仕候

へ由御内澄より勘解由左衛門濱松より尾歸の

本田作左衛門所より遣三五本越候 □野へい

てい

廿三日 辛丑 戌刻より雨降 鷹野へ出候大坊へ點取の夜排

候のて城の

廿四日 壬子 巳時迄雨降 酉時に甲州衆が出候由より酒井

左衛門所より陣觸越能明日廿五日、たろあ
之申申城に

廿五日癸卯 刀刻出より演松一日通ニ越ハ松平玄番所ニ振
舞より城へ出候

廿六日甲辰 如雪同城小性取我等所へ越候

廿七日乙巳 辰時より未時迄雨降 信康演松迄立をされ候

廿八日丙午 信康へ出仕に酒井左衛門所へ越ハ申刻ニ大
をへゆり候五十年以来の大をへ申申半時程

又同時少ゆり候成刻ニ又地震候
牧野原より教山と越候注進候夜をへ申申二度

晦日丁未 牧野原より教山と越候注進候夜をへ申申二度

知時先 教大井川を越候由牧野より注進候て
名國元尺付迄出陣候

霜月大

一日戊申 尺付□ 申時地震候

二日己酉 申時をへ申申 教小山お良筋移候申申家康
信康馬伏塚へ御陣取候諸人数ハ柴原有候

三日庚戌 酉時をへ申申 教務頼より申申の城むらひと
働候家康同惣人数より申申の城より候候教高

天祥迄引五候未方より本陣へ引候 うけ馬善六
へり候

四日 辛未 少雨をへゆる 敵物見よ未だ、へ働此方人

敵、家康と小笠へ成候

五日 壬子 振舞江成候

六日 癸丑 信康山鷹へ出られ候

七日 甲寅 刀刻より雨降 左衛門所より石止治身、ちや
くとも家康より出つけりん中申来候尾州山

崎水野藤次殿より飛脚江成候掛津國荒木信濃

信長へ御敵申候中申来候音信短二本越候平岩

七、助所へつり候

八日 乙卯 卯刻より雨降風吹候 三日番ニ西郷孫九郎江来

十日ニ越候く、取あて候松平時三助江替

候安部三助殿務殿善六成候

九日 丙辰 夜雨す 左衛門所へ越候

十日 丁巳 風吹に番ニ越候松平玄蕃所へふる舞候

十一日 戊午 雨夜ふる 家康よりちやくとつけ越候侍八

十五人申間る廿六人鉄放十五り弓六張遣廿

五本有鎚使三人

十二日 己未 敵高了神ノ引候本田彦二郎所ニ拍子候松平玄

蕃同心同室左衛門所ニ振舞候

十三日 庚申 刀刻より酉時迄雨降 阿部善九郎所よりつけ

〇〇へ移山へ申申来山

十四日 酉 風吹夕懸河益田迄越山敵大井川ヲ越作由牧野

より注進候

十五日 戌 信康各國立振舞江成候諸人数計昨日川を越

以て少く吉嶋陣立候注進候

〇〇吉嶋陣取候

十七日 子 敵島田迄三備働七候

十八日 丑 敵吉嶋より田中迄引去候

十九日 寅 敵吉嶋より田中迄引去候

廿日 卯

廿一日 辰

廿二日 巳 辰時より酉時迄雨降

廿三日 午

廿四日 未 何も身取立ゝふる舞候

廿五日 申 夜雨降

廿六日 酉 夜迄雨降

廿七日 戌 初雪ふる

廿八日 亥 池野有助越候

廿九日 子 申時より申る 松平伊豆守より越山振舞候

晦日 丑 牧野へ袂放衆廿人籠山敵孫頼廿五日引去申

若濱松道引信康公三河へ通られぬ

十二月小

一日戊刀 小うん二入 白きり迄引能

二日己卯 あれふる 道大岩まで家康と岡崎へ至城能

ふりくまで城能

三日庚辰 會下へ参ぬ 平岩七之助所

四日辛巳 會下へ参ぬ ころのへいて能

五日壬午 鷹野へいて能

六日癸未 卯刻より申時迄雨降 牧野秩放能ころへり能

七日甲申 雪ふる 家中宗右衛門所へ振舞門ノ地さる

八日乙酉 ひりせ能 伊勢村山掃部助所よりをり能

九日丙戌 永良へ鷹野に城能

十日丁亥 さし物去りて能て侍衆へつり能

長池より白き日引せ能風吹きて魚あふ

去へ帰能

十一日戊子 夜雪ふる門へ能

十二日己丑 島一人をこり能 去八日信長掃津國荒木信濃

城あり岡崎せぬ諸川水野藤次殿討死し申

越山人をつり能

十三日庚卯 藤次殿必定し申す城能

家世日記

十四日 辛卯

十五日 壬辰

十六日 癸巳

十七日 甲午

十八日 乙未

十九日 丙申

廿日 丁酉

廿一日 戊戌

廿二日 己亥

夜中より雨降未時迄 大入 入 夜に雪

ふる

緒川水次殿吊一人を越山

岡崎浦生寺一世に越山

岡崎岡町へ越山一世所留作

町へいて作

ふりて帰る

廿三日 庚子

廿四日 辛丑

廿五日 壬寅

廿六日 癸卯

廿七日 甲辰

廿八日 乙巳

廿九日 丙午

晦日 丁未

卯時より雪ふる巳時より雨ふる

大法師演松へ越山家康より兵糧百粒を下し由

中身は

水野藤次殿為形足刀壹腰越山山崎に為歳暮人

を遣は吉田へも借錢を申し人を越山

岡崎へ歳暮に越山松平新二郎祝言作同名伊豆

守所より戌刻より雨降

雨降 新二郎所へ食を越山

百糧恐百俵記

家世日記 巳第一

三

天正七年己正月大 小年廿五歳

竹ニ志福人ニ侍ク

一日丁未 家中礼ニ越儀

二日戊申 夜通演礼ニ下儀夕モ出ウシ初夜 立春

三日己酉 松平玄蕃所ニ与ル舞儀演礼家中礼ニあるニあ

らハ迄降ル

四日庚戌 吉田左忠向所ハ礼ニ越儀テふクク迄リハリ

儀酒左ハ安土ハ所使ニ越儀

五日辛亥 出家定礼ニ越儀會下の東中儀与ル舞儀

六日壬子 成刻ニ与ル落ルテあられふ

七日癸丑 丹羽軍人越儀 越儀ハ國初ハ越儀ニ入リ

八日甲子 松平勘解由左衛門所ニ与ル舞儀

九日乙卯 岡崎より之志奉法安被越儀 未時ト至雨ふる

十日丙辰 卯時迄雨降日待儀

十一日丁巳 卯時ニ地震儀祈禱儀夜雪ふる岡崎一世被越儀

為京北外屋越儀テ拍子成刻ニおとスハ火事

いて与ルハ廿五也

十二日戊午 松平表平所ニ与ル舞儀 申刻至ハ申る

十三日己未 佳例ニ連歌儀成刻ト至雨降

賀句 又ハ

喜い代梅くふく嘉和

十四日 庚申 卯刻迄雨降 松平与五左衛門、所、振舞い

岡崎信康所礼うひ初越作

十五日 辛酉 爆竹乘儀岡崎家申礼、あつとふてふくくをへ

りへり儀

十六日 壬戌

十七日 癸亥 小雪也 松平玄蕃礼、は越い 午時より成

時迄雨降

十八日 甲子 倉下、振舞い 雪降

十九日 乙丑 家康岡崎へ御越儀々岡崎へ越儀鳴へ人をこく

儀 家康吉良へ為御鷹は越い

廿日 丙午 家康吉良へ為御鷹は越い

廿一日 丁卯 大坊、振舞い 午時より夜迄雨降

廿二日 戊辰 かりてい作らせ儀

廿三日 己巳 自演松犬法越儀

廿四日 庚午

廿五日 辛未

廿六日 壬申 一尺雪降

廿七日 癸酉 吉良大匠くへ家康所鷹野見舞城い

廿八日 甲戌 鴉殿八郎三郎殿礼、は越儀

廿九日乙未 家康吉良とをふくく足御物供宇谷とく御酒む

りい申供鷹の雁と比下能

晦日丙子

二月小

○一日二日闕佚

三日己卯 濱松へ鷹鷹比下礼、使者より越い燕取ノ誹諧

作

四日庚辰

五日辛巳 燕取ノ誹諧作

六日壬午 小笠原孫六反比越能三日ニ濱松へつらゝ作

老々へり作

七日癸未

八日甲申 松平勘解由所ノ誹諧ノふる舞比 夜より雨降

九日乙酉 雨降 濱松より家康以印判来十八日ニ濱松普

信ニ越比へ申中來比

十日丙戌

十一日丁亥 明ニ夜雨寸白子刻ニ地震去る同戌刻時雨降

十二日戊子 犬法濱松へこ作

十三日己丑 夜雪あゝ是降

十四日庚子 岡崎鷹匠伊藤殿御越能法田も越能 夜雨より

會下へこゝ供

家康より下へ御鷹存振舞い

十七日 辰 伴東飯沼田園崎へ江浦供

十八日 年 演名迄出陣 夜より雨降

十九日 乙 戌刻迄雨降 演名迄越城へ出仕供

廿日 丙 申 ひりん入

廿一日 酉 酉刻より雨降 本田作左衛門の普請

廿二日 戌 申刻より雨降 家康鷹野、振舞各園記に成

供又夕食如雪へ越

廿三日 己 同普請供

廿四日 庚 同普請供内後四郎左衛門の所へふる舞供

廿五日 辛 同普請供松平玄蕃所へふる舞供

廿六日 壬 同普請供天野清兵衛所へふる舞供 巳時雨降

午時大をへゆる

廿七日 癸 同普請供

廿八日 甲 辰時より雨降 内普請供本田作左衛門の所へ

ふる舞

晦日 乙 酉時迄雨降 本田平八郎所へふる舞供

三月大

一日丙午 同普請仕

同普請仕 屋敷の家作り也

同普請仕 城に出仕仕

四日己酉 同普請仕 卯時より雨降小性衆ふる舞也

五日庚戌 同普請仕

六日辛亥 牧野原番掛河益田迄越人敷演松の半分並也

同普請仕也

七日壬子 牧野原番西郷孫九郎に替也

八日癸丑 定番亦ふる舞也

九日甲寅 雨刀刻迄降

城

十日乙卯 番普請仕松平甚太郎にふる舞也

十一日丙辰 同普請仕同甚太郎内衆ふる舞也晩牧野新二郎

内流山本與一朗所にふる舞也

十二日 同普請仕末代松平周防東條より江帰也同牛久

保山本小一朗所にふる舞也

十三日戊午 同周防守へふる舞候是より衆持に越いて男女

廿四人牛馬四ツ五にて越也

十四日己未 同甚太郎内流都筑助大夫所にふる舞也

十五日庚申

十六日辛酉 辰時より雨降刀刻迄同周防所にふる舞也晩東

十六日

○自十七日至廿日闕佚

廿一日 丙

廿二日 丁

廿三日 戊

廿四日 己

廿五日 庚

廿六日 辛

廿七日 壬

廿八日 癸

[]

普清出来仕家中喜平定番前ふる舞い

牛久保元稻垣平右衛門所ふる舞い



番戸田新六郎へ替仕濱松迄越い

戌時より雨降深溝へ日け越い

刀刻と雨降竹のや侍後夜より使と越い

廿九日 甲戌

晦日 己亥

四月大

一日 丙子

三光院ふる舞い

○自二日至六日闕佚

七日 壬午

深溝むらい市場

[]



八日癸未 崇福寺にふる舞に越後岡崎松崎殿伊東殿は越

後

九日甲申 松平権兵尉所ふる舞に よこおち民部殿よ

りけの馬所望作

十日乙酉 大原一平所ふる舞に 戌刻より雨降作

十一日丙戌 未刻迄雨降 ふりうきりへり作

十二日丁亥

十三日戊子 申刻より雨降 濱松へ人と越後大法むり同

茶初尾もたせ下作

十四日己丑 雨降

十五日庚子 巳時迄雨降 會下へり

十六日辛卯 夜雨降 吉田藤田寺の高合、八木拾俵越作自

濱松大法越作

○自十七日至廿一日關伏

廿二日丁酉 家いさりへし作宗右衛門所ふる舞に

廿三日戊戌 市よりさき馬りい作 敵武田勝頼駿河江尻迄

出作やうて来廿六日濱松迄立作へし由石

河伯者所ふる舞作

廿四日己亥

廿五日庚子 濱松迄日けに陣作城に未刻に陣作教高天

蘇楚日記第一

卷四

神國安之陣五作中作

廿六日 辛丑 家康夜内之馬伏塚迄御馬被出作佐康も從吉田

馬伏塚迄越作各三川國迄と見附之陣五作

廿七日 壬子 三河衆ふくろい迄陣よせ作敵國安と引のき作

廿八日 癸卯 己越くハ河合市場へ陣替作

廿九日 甲辰 馬伏塚よりととへ越作敵大井川と越作て濱松

迄御歸陣作

晦日 乙巳 亥時より雨降惣人数ハ三川へ返作て大将計

濱松へ作

五月小

○自一日至五日關伏

六日 辛亥

七日 壬子 夜より雨降

八日 癸丑 雨降 東條都筑助右夫越作

九日 甲寅 同雨降

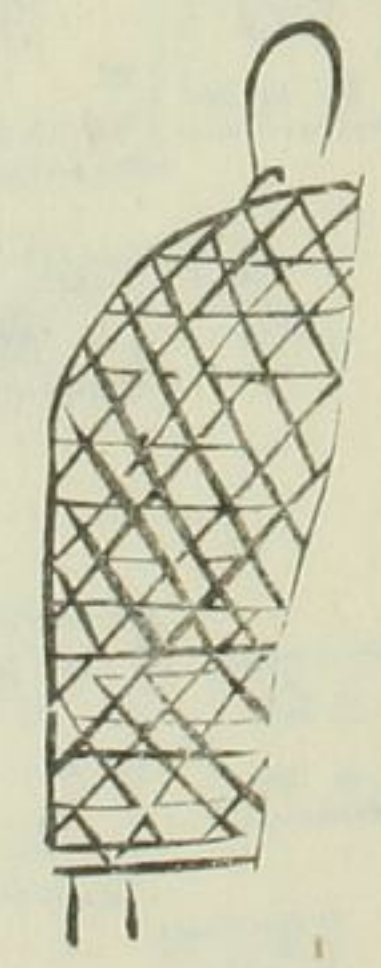
十日 乙卯 卯刻迄雨降

十一日 丙辰 夜より雨降初禱花

十二日 丁巳 夜迄雨降川より越作

十三日 戊午 夜より雨降川より越作

十四日 己未 雨降



十五日 庚申 酉時迄雨降 會下より七日待候

十六日 辛酉

十七日 壬戌 刀刻より雨降

十八日 癸亥 同雨降 法花寺より月次連歌供弁之儀

散句

ゆへにそはなすゆへにそはなす

ていしゆい正候

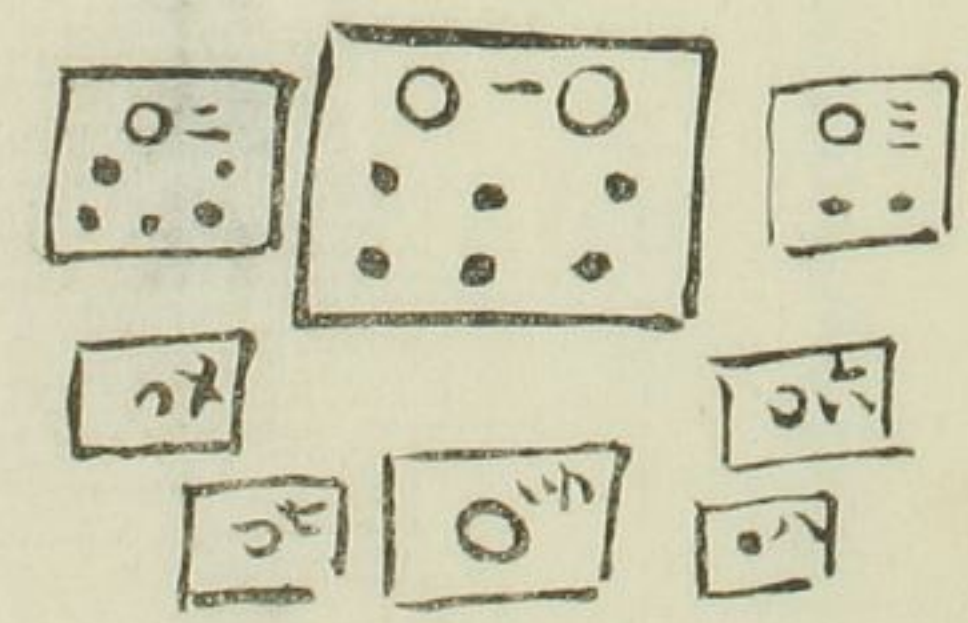
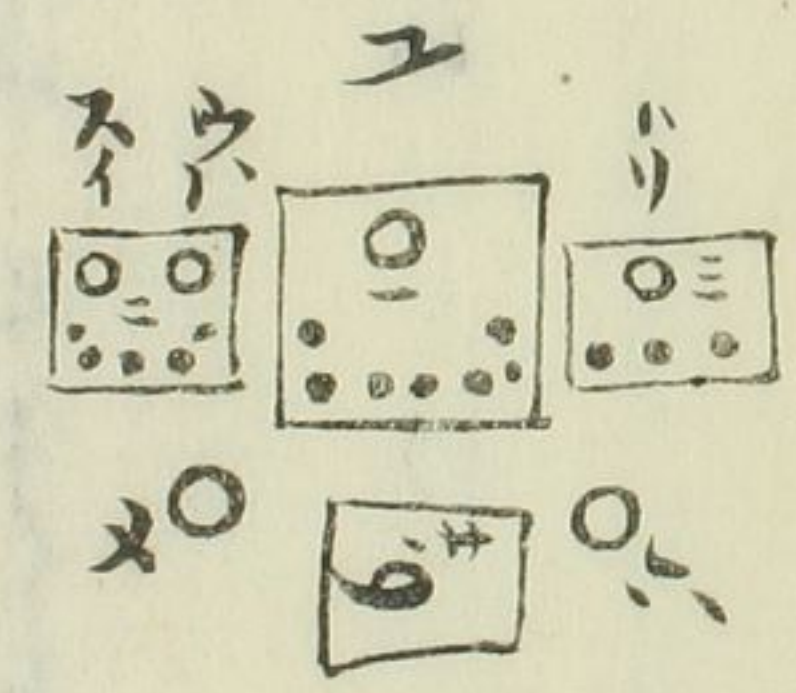
十九日 甲子 巳時迄雨降 竹谷備後守殿座敷に作

○自廿日至廿四日 關伏

廿五日 庚午 會下より 初楊梅越候

廿六日 辛未

廿七日 壬申



廿八日 癸酉 東條都筑助右夫に越候

晦日 甲戌 川より越候

六月 大

一日 乙亥 申刻より立候 又子時よりあはれ候に 初ふ

り城に 園崎に城して城へ出に松平伊豆守

振舞い小唄に川より城に

二日丙子 係と松平孫十郎所、振舞い巳時より雨降候保

こにち中り候

三日丁丑 夜と雨降ふくく其へり候

四日戊子 川くり、城の午刻より雨降

家康演松より信康御越し、城候

六日庚辰 龍院より楊梅越候

演松殿遠州に帰候くらくらん煩候

辰時、雨降

九日癸未 山崎女房京に歸候

十日甲申

十一日乙酉 卯時より雨降

十二日丙戌 夜と雨降

十三日丁亥 川くり、越候

十四日戊子 夜より雨降候

十五日己丑 巳刻より大風吹候同雨降

十六日庚寅 卯刻迄風吹同雨降

十七日辛卯 卯刻迄雨降又夜より雨降

十八日壬辰 同雨降うく三河に産麦作候

辰時迄雨降

○自廿日至廿三日闕伏

廿四日戌 卯時之雨降もしく又酉時より雨降

賀句

正佐作

浦をいれて風りりりそふ麓八

廿五日己 未時迄雨降 月次之連歌也

竹のやま左巻の河油淨振也

廿六日庚子

廿七日辛丑 倉下之参也

廿八日壬子 卯時雨降同酉時より雨降

廿九日癸卯 巳時迄雨降 川くり之越也

晦日甲辰 川くり之越也 ちこれより迄トよりは越也

越前より幸野大夫舞之越也 倉下之参也

多和田河よりより参りあり以上三番有

七月小

一日己 幸野越也 舞儀在うらそりハ嶋笛のまき又其

後彦彦まきんらんらんち申有以上四番

二日丙 川くり之越也 同名典五左衛門所之舞儀たいて

ゆきん高うらふらふらと能とこころへ以上四番

三日丁未

四日戊申 川くり之越也

家定日記

五日

六日 庚戌

七日 辛亥

八日 壬子

九日 癸丑

十日 甲寅

十一日 乙卯

十二日 丙辰

酉時より夕立夜迄降堤つせ作

園崎城に出仕に越作又永良へつへり作同堤つ

せ作

ふりつそつへり同堤つせ作

川つり越作自家崎松崎伊東殿に越作自遊州

大寺殿に越作

川つり越作

川つり越作

午時より雨夜迄降松崎伊東園崎へ歸



川つり越作

巳時より夜迄雨降川つり越作濱松より大

法越作

倉下せり越作

同城せり百々倉下へり大寺殿兵法を

作

十六日 庚申

十七日 辛酉

十八日 壬戌

十九日 癸亥

川つり越作

おとりて方へつけ作

申刻より酉時迄夕立す

家定日記第一

巻記

廿日甲子 三光院大坊よりおとり北返し申刻より戌刻迄

夕立あり

廿一日乙丑 卯時より午時迄雨降 會下へり

廿二日丙子

廿三日丁卯

廿四日戊辰

廿五日己巳

廿六日庚午

廿七日辛未

小英川より越後國時伊東殿丹年越後
保、孫十郎所、ふる森同川より、越後てふ
うをへりへり山松平九七郎祝言は野田菅沼又
左衛門殿より

廿七日辛未

廿八日壬申

廿九日癸酉

八月大

一日甲戌

二日乙亥

卯刻より雨降
九七郎所へ祝言ふる森越後 同雨降
同雨降風吹
大雨ふる家中礼、越後
夜迄雨降あり提子礼松平在平所、月次連
歌作

散句

正徳作ていし句

霞子香はこりれぬや程萩もむ

三日丙子

濱松の家康園崎は越後

四日丁丑 夜より雨降 御記子に作談し信康大演の御

返信

五日戊辰 夜より雨降 園崎に越はへ自家康子よりて

つもの宮つ連にて西尾に越はへは作して

しをへ越は自家康と西尾に福信去下陣に

北端城番あり信

六日己卯 雨降北端城番あり信

七日庚辰 午時迄雨降 家康園崎に被越は本城御番松平

上野榊原小平太北端城御番松平玄蕃鶴殿八郎

三郎与三人也 善五左衛門所陣に信玄番八

郎三郎ふる舞い 平岩七之助所より大鷹兄弟

あつり信

八日辛巳 榊原小平太松平上野同玄蕃鶴八郎三郎ふる舞

信

九日壬午 勘解由園崎大澤石川伯耆さへ人へ越は

作小性京五人信康大演より遠州堀江城に越

信

十日癸未 自家康園崎に越はへ由勢殿善六郎御使よ

て園崎に越は各園衆信康へ内音信中言及いと

御城より文に

十一日 甲申 ふうふうをへり作 かまやつくせ作

十二日 乙酉 會下へり 家康濱松へ所へりい 鶉殿善六

越化岡崎城ニ志本田作左衛門御留守ハ

十三日 丙戌

十四日 丁亥 卯刻ニ雨降

十五日 戊子 本田作左衛門音信ハ吉田左衛門所より來十九

日陣ふせこい

十六日 己丑 卯刻より夜迄雨降

十七日 庚寅 東の茶湯志宗音越化平岩七ノ助所より預り

作よりとり越化

十八日 辛卯 竹の也迄陣用意ニ立候へハ今度先へお延候

由酒井左衛門所より折返越化へ歸候

十九日 壬辰 足助ニ漆りい人々を越化

廿日 癸巳 子刻より雨降

廿一日 甲午 夜迄雨降基所勘定候

廿二日 乙未 酉刻より雨降

廿三日 丙申 同雨降 鉄放棄調合候

廿四日 丁酉 卯刻迄雨降 犬法濱松へり候

廿五日 戊戌 ひうんニ入 午時より雨降 會下へり

廿六日 己亥 同雨降

廿七日庚子

同雨降 松平藤五郎月次連歎作

散句

ていし由名ふい正作

いし浦に花や露そふ野への秋

廿八日辛丑

夜迄雨降 曇下へり

廿九日壬子

晦日癸卯 申刻、地震作

九月小

一日甲辰

二日乙巳

為牧野番日通、濱松迄越作家康所煩、て城に
ていて作はすい、日水く所へ松平玄蕃休庵に

越作

三日丙午

鴉渡善六所、ふり舞、て懸河迄越作

四日丁未

牧野番、西郷孫九郎替作松平周防所、ふり舞

作

五日戊申

定番食ふり舞い伊豆所あつ、いそふ作て朝伊

奈弥右郎昨日越作申濱松より中城に

六日己酉

東條京都筑助右夫所、ふり舞い

七日庚戌

東條敷岡田権平所、ふり舞作夕倉牛久保殿、

ふり舞い

八日辛亥

厚い雨、い作 小笠原丹波所、ふり舞作

家内言

九日壬子 未刻より夜迄雨降 家中新二郎各々番京ふら

舞作

十日癸丑 同控兵尉ふら舞定番京

十一日甲子 松平甚右郎所ふら舞作

十二日乙卯

十三日丙辰 伊豆御嶽跡おまへて来十七日：所合之働

いりん申さ申すり申す

十四日丁巳 定番京ふら舞作

十五日戊午 未刻より雨降

十六日己未

十七日庚申 伊豆子合：諸人教懸河出陣作

十八日酉辛 後河二山陣取作 只れく八番番より牧野所

留中居候

十九日壬戌 同ふらめ板持船：城牧野京々け、己京黄崩三

十程打五候

廿日癸亥

廿一日甲子 酉時より雨降

廿二日乙丑 同雨降

廿三日丙寅 大風雨降酉時迄

廿四日丁卯 夜雨降

家内言 巳第一

四十四

廿五日戌 甲州衆府中込少、人数福修之家康井籠迄引取

証集片

廿六日巳

廿七日庚

廿八日辛

伊豆より早、御帰陣に、と申越、以て井籠、牧野迄御入り、候由候也

晦日壬 牧野迄御帰陣候

十月大

一日酉 卯刻より酉時迄雨降、牧野城屏普請候、とて右

濱松へ御帰陣候

二日戌 甲

三日乙 亥

四日丙 子

五日丁 丑

未刻より雨降、濱松へ番替事、二連本宿へ人をつら、候

六日戌 卯

七日巳 辰

八日庚 辰

濱松普請候内、番替無用、と申申候、侍衆半分三河に返、候氏真様、日、陣所へ御越

九日辛 巳

戌刻より雨降、氏真様御入り、舞臺候

家忠日記第一



十日 壬午 午時迄雨降

十一日 癸未

十二日 甲申 酉時雨降

十三日 乙酉

十四日 丙戌

十五日 丁亥 演松より近日所陣より有る由申奉り

十六日 戊子 小笠原安藝守殿へふる舞越儀

十七日 己丑 演松へ番替事申上候

十八日 庚寅 演松普請出来りて各國京廷御下二連木京来五

日二番替儀り申上奉り

十九日 辛卯 未時より丑刻迄雨降 家康掛河上所出陣儀

廿日 壬辰

廿一日 癸巳

廿二日 甲午 卯刻に地震儀 定番京ふる舞儀

廿三日 乙未

廿四日 丙申 家康よりけ川より牧野迄御出陣儀

廿五日 丁酉 伊豆船むらゝ井籠崎迄朝伊奈兵衛尉送り不

て右越儀二連木京番渡儀

廿六日 戊戌

廿七日 己亥 丑時より雨降 同舟むらゝ井籠迄越儀

家康日記

廿八日庚子 雨時止雨降

廿九日辛丑

晦日壬子 如雪松平玄蕃ふる舞

霜月小

一日癸卯 城に出仕從三河國家越能酒井左衛門ふる舞

作

二日甲辰 松玄蕃所ふる舞 城善治いいつ使りけつ

より船を越いりんより牧野を越能

三日乙巳 卯刻止雨降 同善清作

四日丙午 井籠より降りいでのり次中よりけいあ

さちりいして海作野火つけ作鳥居左衛門

同心より所成敗作

五日丁未 普清所替い松平玄蕃所ふる舞

六日戊申 安部善九松玄蕃ふる舞

七日己酉 同善治い 漣さるへりより越能て敵十四五人

希物ヲ取取作

八日庚戌 松平備後同玄蕃鶴殿八郎三郎ふる舞

九日辛亥 夜より雨降 松玄蕃所ふる舞

普請出来い巳時止雨降 人数半分返りい

家康公りけりといと所越い各りけり已諸郷へ陣

家康日記第一

四十七

替作

十二日 甲 家康馬伏塚へ所越作日れくハ河合市場と誠作

人較返しハ

十三日 乙 備後所より舞作 名園記より是より陣替作

日れくハ人数は酒左一取に作

十四日 丙 是より酒左陣替作 家康出鷹炊して演松へ

水越作

十五日 丁 家康自演松所帰して出仕作

十六日 戊

十七日 己 酒左ふる舞作

十八日 庚 家康より是より強いのん申作

十九日 辛 酒左小性流ふる舞作夕七酒左所よりふる舞作

廿日 壬 亥刻より各陣陣いへより由本田百助所使越作て刀

時いて作

廿一日 癸 不りく是へ日くけに作

廿二日 甲 言下へらく 刀刻より雨降

廿三日 乙 卯刻より雨降 自園崎松崎伊東に誠作

所よりふる舞作

□ □ 刀 □ う氏雪降 家康よりより 是下より酒左より教田

申迄出い申中來作

廿五日丁卯 けゆ所なる舞い 卯刻に園崎天之兵所より放出信間子に越松へに申中來いてありいと

出陣

廿六日戊辰 濱松へ越松に玄蕃所なる舞い城に出兵教高

天神へ福に申進出

廿七日己巳 見付と出陣信教國安を引出

廿八日庚午 牧野へ飛脚越出

晦日辛未 教昨日大井川に越出申して濱松へ歸陣申へに

申本四作左衛門申して歸陣申へに家康より詔次迄今日先に見付に陣取申へに申中來いて

又歸

十二月大

一日壬申 歸陣申へに申中來いて濱松に越出高橋より

下へ越出者ありの如きとあり

二日癸酉 ぶくしと越出

三日甲戌 けゆのへいて出

四日乙亥 吾下へい

五日丙子 けゆのへいてい

六日丁丑

七日戊寅

けゆのへいて信切山おとへ



家忠日記第一

くれ作

八日己卯

うらのへいて作あしのやあところし作者あし
ため小園崎より拉使越作

九日庚辰

吉田酒井左衛門娘牧野新二郎所に祝言作鷹野
へ出い

十日辛巳

永良へ鷹野へ越作 戌時より雨降

十一日壬午

同雨降

十二日癸未

小くんへ入作 永良より深海へ帰作酉刻より雨降

十三日甲申

十四日乙酉

鶴殿ハ郎三郎子ゆ小けりれ作祝言下に越作

十五日丙戌

會下へりと妹おはちおまへに居けつりに成作

十六日丁亥

是のやまところし作者あしれ作て六粟より申越作 鷹野へ出作 丑刻より雨降

十七日戊子

同雨降

十八日己丑

卯刻より雨降 清田丹年人越作 又酉時より雨降

十九日庚子

雨降同日雨間有 竹后備後小年祝、松平金左衛門より越作

廿日 辛卯 同雨降

廿一日 壬辰 田酒左、人をこゝ作 卯刻迄雨降 會下

へら

廿二日 癸巳 日待作名下、て 東堂同益藏、ふ多舞比来い

廿三日 甲午

廿四日 乙未 うを雪降

廿五日 丙申 園崎へ越い、一世所、留作

廿六日 丁酉 平七、助石伯所、越作 鷹つ、い、り、ふ

廿七日 戊戌 子刻、ふへゆる

廿八日 己亥 申刻より夜迄雨降

廿九日 庚子 演松へ越年、越作演名、留作

晦日 辛丑 演松と越作丑刻より雨降 落付物殿善六へふ

多舞作

家
典
言

第
十
六
回
小
說
一
卷
之
終

